

会 議 録

<p>会議名 (審議会等名)</p>		<p>第 1 5 回 次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会</p>		
<p>事務局 (担当課)</p>		<p>都市計画課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 7 (直通) 生涯学習課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通) 公園課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 3 (直通)</p>		
<p>開催日時</p>		<p>令和 3 年 1 2 月 1 2 日 (日) 午前 9 時 3 0 分～午後 0 時 1 5 分</p>		
<p>開催場所</p>		<p>相模原市役所第 2 別館 3 階 第 3 委員会室</p>		
<p>出席者</p>	<p>市民検討会 委員</p>	<p>1 8 人 (1 2 ページのとおり)</p>		
	<p>有識者協 議会委員</p>	<p>3 人 (1 2 ページのとおり)</p>		
	<p>その他</p>	<p>0 人 (各施設担当者)</p>		
	<p>事務局</p>	<p>1 3 人 (都市計画課長、生涯学習課長、公園課長他 1 0 人)</p>		
<p>公開の可否</p>		<p><input checked="" type="checkbox"/>可    <input type="checkbox"/>不可    <input type="checkbox"/>一部不可</p>	<p>傍聴者数</p>	<p>3 人</p>
<p>公開不可・一部 不可の場合は、 その理由</p>				
<p>会議次第</p>		<p>&lt;開会あいさつ&gt; 1 全体会 資料説明 2 グループワーク ・今期市民検討会のまとめ ・次期市民検討会委員へ伝えたいこと 3 講評</p>		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（◎は市民検討会委員の発言、○は有識者協議会委員の発言、●は事務局の発言）

## 1 経 過

生涯学習課長による開会の後、要綱第5条第3項の規定に基づき、有識者協議会鈴木会長進行のもと、傍聴の確認を行い、事務局から資料説明、質疑応答を行い、その後、グループワークを行った。

## 2 議 事

## (1) 今期市民検討会のまとめについて（全体会における資料説明）

資料に基づき、前回検討した内容の確認、前回までに出了意見の整理、今期市民検討会のまとめ等について、事務局から説明を行った。

## 【説明内容】

前回検討した内容について、簡潔に振り返りとしての確認を行った。

まず、委員の総合的な評価が最も高かった折衷案と、次に評価が高かった公園中心パターンについて、改めてパターンの内容を確認した。資料P4左側の「公園中心パターン」は、当初の基本計画案に近い内容で、図書館や公民館などを、現在の鹿沼公園内に複合施設として再整備を行うものである。これまで市民検討会で出された意見としては、自転車駐車場は駅前にあった方が良いという意見が多かったことから、自転車駐車場は、現在の位置で個別に建替えとしている。また、公園については、どの検討パターンも何らかのリニューアルを行うという意見が出されていたことから、公園は全体的にリニューアルを行い、それに付随して、図書館敷地と公民館敷地の土地を活用する、というものである。

次に、資料P4右側の「鹿沼公園中心パターンと図書館敷地中心パターンの折衷案」は、図書館や公民館などの複合施設を、鹿沼公園と図書館敷地を一体的に利用し、再整備を行うというものである。「公園中心パターン」と同様に、自転車駐車場は、現在の位置で個別に建替え、公園は全体的にリニューアルを行い、公民館敷地の土地を活用するものである。想定事業費の試算上では、仮設の図書館の建設に必要な費用も見込んでいます。

第14回市民検討会で委員の評価が高かったどちらの検討パターンも、施設の複合化に関する具体的な検討は今後必要となるが、自転車駐車場については、「鹿沼公園の中」や「図書館敷地を一体的に利用する場所」ではなく、駅に近い現在の位置

での建替えとした点、また、公民館敷地については、具体的な跡地利用の仕方は今後検討が必要となるが、売却又は定期借地により土地活用益を見込むという点では、どちらの検討パターンも共通のものになっている。

資料P5の表は、第14回市民検討会の資料のうち、評価シートの集計結果を記載した表を基に、折衷案と公園中心パターンに絞って比較をしたものである。「公共施設」、「公園」、「まちづくり」のほとんどの項目で、折衷案の方が高い結果となったが、「実現に向けた課題」の項目では、公園中心パターンの方が高い結果となっている。

資料P6は、第14回市民検討会において、折衷案と公園中心パターンを比較して見えてくるポイントをまとめたものである。

折衷案の方が優先度の高い結果となった理由としては、折衷案は、公園に隣接する図書館敷地を一体的に利用することで、公園への影響を抑えつつ、公共施設の再整備等を行えることへの期待から、評価が高かったと考えられる。

また、図書館敷地を一体的に利用するか否かが、2つのパターンを特徴づける最も大きなポイントとなる。図書館敷地を売却や定期借地等により活用することができれば、より多くの土地活用益を見込むことができるが、図書館敷地に複合施設を設置する場合、工事期間中の図書館サービス継続のためには、仮設が必要になると考えられ、想定事業費の増加や、サービス休止期間が長くなることが課題ではないかという意見が出されていた。

第14回市民検討会の中でも、折衷案について、複合施設を現在の図書館敷地の中に設置するのか、現在の公園敷地の中に設置するのかまでは、意見はまとまらなかったという発表もあったが、例えば、図書館を含めた複合施設を、鹿沼公園側に建てるのか、図書館敷地側に建てるのかによっては、メリット、デメリットが変わってくると考えられる。

敷地の一体利用ができるか、図書館敷地に関する土地活用益を見込めるか、図書館サービスの継続にあたり、仮設が必要となるかの点で比較すると、「折衷案」で「図書館を含めた複合施設を鹿沼公園側にすれば、図書館敷地に関する土地活用益は見込めないが、敷地を一体的に利用しつつ、仮設が不要で図書館サービスを継続できることから、折衷案の中でも実現可能性はより高くなると考えられる。

以上のことから、まとめの案として、「鹿沼公園と図書館敷地を一体的に利用して再整備を行う」と記載したが、この後のグループワークで検討をしていただきたい。

資料P7は、第12回市民検討会で今後の進め方を決めた際の資料を再掲した。12月末までにパターンに関する議論を尽くし、より具体的な検討は、次期市民検

討会委員に委ねることとなり、第13回市民検討会では、各検討パターンの想定事業費等を確認した後、各検討パターンを評価するための視点についてグループワークを行った。第14回市民検討会では、その評価の視点に基づき、検討パターンの絞り込みを行うとともに、前のページで整理したような論点も明らかとなってきた。

今回が今期最後の市民検討会となるが、今後は、市民検討会における意見を踏まえて、庁内でも確認をさせていただく。具体的には、行政の目線で実現に向けどのような課題があるか、最も効果的な事業手法かなど、検証したいと考えている。

行財政構造改革プランでは、「市民検討会の検討結果を踏まえた取組を実施する」としていることから、今回までの市民検討会における検討内容を庁内で確認した結果については、次期市民検討会において、改めて説明をさせていただく予定である。課題があるとするれば、次期市民検討会で具体的な検討を行う中で、委員の皆さんと、どうすれば解決できるのか、我々も一緒に考えていきたい。

資料P8は、「次期市民検討会委員へ伝えたいこと」の説明である。この後のグループワークで意見交換をしながら、他に伝えたいことはないか、将来こうあって欲しいという想いや夢のようなことについても、意見交換をしていただきたい。また、今回までの市民検討会でパターンに関する議論を尽くした結果、皆さんの意見が「折衷案」にまとまった場合には、検討パターンの名称についても、折衷案に代わる何か良い呼び方のアイデアがあれば、グループワークの中で出していきたい。

#### 【質疑応答】

- ◎：折衷案にまとめてはどうかという主旨の資料と受け取った。ここで一つの案にまとめるというのは雑過ぎるのではないかと感じている。6つの検討パターンが出されて、それぞれ想定事業費の概算をしたとして、「まとめ」は付けずに次期市民検討会に送る方がよいのではないか。これからまとめについて話し合うということは承知しているが、今回で一つにまとめるのはどうかと思っている。
- ：そういったところも含めて、まずは、この後のグループワークでまとめについて話し合いをしていただきたい。
- ◎：資料では、自転車駐車場は個別に建て替えとして、複合化の対象から外れているが、当初の基本計画案では、自転車駐車場も移設という考え方であったと承知している。複合化の対象から外れている理由はどのようなものか。財政的には、複合化の対象として含めれば、土地活用益を見込めるのではないかと考えられる。
- ：市として意図があり複合化の対象から外したのではなく、これまでの市民検討会で検討されてきた経過を踏まえると、市民検討会委員の皆さんの考え方の

ほとんどは、自転車駐車場は基本的には今の位置のままが良いということであったので、複合化の対象からは外されている。

◎：自転車駐車場は、現在の位置で建替えるという方向性で決まったという考え方でよいか。

●：自転車駐車場の再整備の方法については、色々な方法が考えられる。従来通り市が建て替えるのか、民間活力を有効活用しながらセットで再整備を行うのかなど、具体的な整備手法については、次期市民検討会の中で議論することになると考えている。

◎：分かりました。自転車駐車場はあれだけの面積があるので、民間開発などと併せて考えていった方が良いと思う。整備手法は、今期の市民検討会ではあまり触れていなかった部分であるが、具体的には次期市民検討会に委ねるということが良いか。

●：基本的に前回の市民検討会の中では、折衷案がよいという意見が多かったと承知している。折衷案と公園中心パターンについて、優先順位もつけられており、これまでの議論からすると、自転車駐車場は現在の位置が良いだろうということである。また、折衷案についても、公園中心パターンについても、公民館の敷地は、何らかの活用ができるだろうということであり、跡地利用の具体的な中身については、次期市民検討会で検討することになる。

◎：前回の会議録でも、公園の機能に関することが記載されている。公園の機能に関しても、押田先生から講演いただき、公園WGの中ではかなり議論はしてきたと考えているが、押田先生としては、市民検討会で公園の議論は十分にできたと感じているか。

○：これまで公園WGの中に入って、コメントなどをさせていただいた。公園の中の使い方、公園に求めること、実際に利用されている方の意見等については、これまでの市民検討会の会議録等に反映されていると思うので、そこを引き出すようにしてほしい。公園中心パターンも折衷案も、どちらにしても、公園ありきで成り立っているものである。特にコロナ禍を経験して、公共空間において、公園が必要な施設だということは、私を含め色々な方が再認識されていると思う。再度、これまでの市民検討会で出た意見を確認していただけるとありがたい。

○：ここからは、まとめについてグループワークを行いたい。前回の市民検討会では、「折衷案」が最も優先順位が高く、次が「公園中心パターン」だということまでは合意されている。今回の資料でも、前回までの結果を踏まえて「まとめ(案)」として記載されている。どこまで具体的に市民検討会の案だといえるのか、具体的に言ったほうがいいのか、言わないほうがいいのかという事もある。資料にあるとおり3つ(折衷案2つと公園中心パターン)を羅列し、それぞれ

のメリット、デメリットを並べていくということに留める事でも構わないが、市民検討会のまとめの内容として方向性を提案するところまで行くのか。今までそのような議論はないが、もっと具体的な案としてまとめてしまうか。まとめ方として、大きくこの3つくらいが想定されるが、3つの班ごとに意見交換をしていただきたい。

## (2) グループワーク 今期市民検討会のまとめについて

今期の市民検討会のまとめについて、3つの班ごとに検討を行った後、全体で確認した。

### <1班>

次期に申し送るものとして、一点目は、鹿沼公園と図書館敷地の一体案を今期の市民検討会としては推しますということ。二点目として、前回までに6つの検討パターンを検討してきた中で一体案にまとまったということは、きちんと引き継ぐということ。これまでの前提条件は、あくまで前提条件であり、第13回、第14回の資料をきちんと引き継ぐ必要がある。三点目は、細かい検討はまだ何もできていないので、次期の方にしっかりとご検討いただきたいということ。その三点を申し送ることとしたい。

### <2班>

淵野辺のシンボルである公園、公民館、図書館といった中心となる施設の機能を大切に考えており、敷地を一体利用することでまとまった。財政の考え方として、財源の確保は大事だが、土地利用の仕方としては、色々なアイデアがある。例えば、地域で市民が自分たちでその土地を維持していくというようなアイデアも出された。まちづくりに関して、大人だけでなく子どもの声も聴いてほしいという意見もあった。グループワークの中で最も時間を割いたのは、次期市民検討会委員に対して、我々が今まで話をしてきた思いが、伝わるかどうか不安だということ。次期市民検討会委員には、また新たな考えで検討するのではなく、これまでの検討内容を引き継ぎ、より良いものにするという思いを持って検討していただきたい。

### <3班>

基本的には、図書館と公園の敷地を1つのものとして考えるということである。その中に何をどのように入れるのかということの確定は、駐輪場や青少年学習センター等も含めて、次期市民検討会で具体的な検討をお願いしたい。公民館敷地については、空いたところを、市に対して財政面でプラスになるように進めていってはどうかということであった。次期市民検討会委員の方にとって、過去の6パターンは参考資料になると思うが、公園と図書館を一体としたところで、何をに入れて、どのような形で活性化させていくかという方向は(今

回で) 定めていただき、それ以外の検討パターンは参考にはなると思うが、ここでまた全ての建物を建て直した方がいいとか、そういう意見が出てしまうと、また振り出しに戻ってしまう。検討を前に進めるためには、委員個人の考えに寄り添うことは大事だが、歩み寄りも必要という考えの下で、次期市民検討会で検討をお願いしたい。

- ：今回の冒頭でも話があったが、タウンニュースで記事が出て誤解があった部分もあると思われる。事務局としては、取材の際に、市民検討会の議論を踏まえて、第14回の資料の内容をお伝えしただけであるので、その点はご安心いただきたい。
- ：3班の発表で出ていたように、みなさんのこれまでの議論、資料としてまとめられている内容についても、これまで積み上げてきた大切なものとして受け止めており、これまで積み上げられてきた内容は、当然次期市民検討会に引き継いでいくものと考えている。そういったこともあり、前回の検討内容について本日改めて説明させていただいた。
- ：各班の発表であったように、鹿沼公園と図書館敷地を一体的に利用する案ということは、まとめの方向性としてはよろしいかと考えている。細かい部分のところは、議論が尽くされていないことから、次期市民検討会で議論することになる。具体的にどういう施設配置とするかなどについては、2班のグループワークでは、どうすれば行政サービスの継続性が確保できるのか考える必要があるとの意見が出ていた。3班のグループワークで話が出ていた自転車駐車場については、冒頭のご質問と回答させていただいたことにも関係するが、現時点での方向性では複合化する施設に入っていないものの、皆さんがこれまで検討をしてこなかったという訳ではないと思う。自転車駐車場の場所を面として一体で捉えたときに、再整備する手法は、民間からの提案を活用していけばもっといい提案があるかも知れないし、より良いものができるかも知れない。そういった手法については、決まっていないことから、次期市民検討会において、話ができると良いと考えている。先ほどの発表で「自転車駐車場等を含めて次期市民検討会で検討」という発言があったが、皆さんも同じ考えだと思っている。今ここで詳細まで決めるという訳にはいかないが、そういうものを含めて方向性として考えるのであれば、そういうことを含んでいるとして良いのではないかと思う。皆さんからいただいた意見をまとめて、この場で整理させていただいた。
- ◎：これは提案だが、市民検討会では、今までは市民が対立しないように、決を採るようなことはしてこなかったと承知している。今回は今期最後の市民検討会であり、どの班も一体案で異論はないとのことなので、市民検討会としては一体案を推薦しますという点に関しては、拍手でまとめたらどうか。

- ：今ご提案をいただいたように、まとめということでは、鹿沼公園と図書館敷地の一体案と言うことでよろしいか。
- ◎：我々はこれまで検討をしてくる「一体」というイメージができるが、もし記事等で絵が描かれたりすると、資料を見ていない人には誤解を与えてしまうと思う。公園を拡大しつつ一体的に利用するといったようなことが伝わる表現とした方が良くはないか。例えば、拡大パターンとか。
- ◎：どの班もまだ名前までは検討していないのではないか。私は、「鹿沼公園と図書館敷地の一体案」という名称を考えてはいた。班ごとに名称を考えてから、もう一度全体で話をしても良いのではないか。
- ：資料を見ないと分からないという点はその通りだと思う。誤解を与えないような検討パターンの名前を決めるのは難しいとも思う。本日まとめとした検討パターンの名称については、この後のグループワークの中で、良いアイデアがあれば出していただきたい。
- ：鹿沼公園と図書館敷地を一体で考えるという方向性を今期のまとめとして確認してはどうかとのご提案をいただいた。各班ともに鹿沼公園と図書館敷地を一体的に利用して再整備等を行う案を1つのまとめということで、今期の市民検討会における皆さまの意見としてまとめさせていただきたいが、よろしいか。  
(会場から拍手)
- ：ありがとうございました。
- ：鹿沼公園と図書館敷地を一体的に利用して再整備を行うということが、この間検討してきたことのまとめだということになりました。

### (3) グループワーク 次期市民検討会委員へ伝えたいこと

次期市民検討会委員へ伝えたいことについて、6つの班ごとに意見交換を行い、全体で共有した。主な意見は、以下の通り。

- ：事前に記入していただいたもの以外で書いたものがあれば、発表していただきたい。欠席の方にも12月14日までに提出をお願いしているので、14日までであれば、追加で出していただいて構わない。「折衷案」の名称を考えるまでに至らなければ、皆さんの意見を踏まえて、事務局でも案を考えてみたい。
- ◎：元々の計画案に反対、違うという意見が多かったことから、市民検討会が始まったと考えている。まずは、鹿沼公園や淵野辺地区のまちづくりとして、閑静な環境を守るということを意識して欲しい。一方で商店街の方などは地域を今以上に活性化させたいと考えているようなので、両方の視点を大事にして欲しい。公共施設については、老朽化対策をすることも大事だが、今の世代だけでなく、次の世代のことも考え、ニーズに合わせた施設とすることに留意して欲しい。地域住民の憩いの場であり、何も用がなくても集まって余暇を楽し



むといった「サードプレイス」といった意味合いを大事に考えてほしい。検討パターンの名称については、「鹿沼公園と図書館一体活用」のように「活用」という言葉を使用してはどうか、と考えた。

◎：「次世代につなぐまちづくり」ということで考えてみた。日本は高齢化社会に入り、今後さらに高齢者の割合が増えると思う。そのようなことも視野に入れて考えていただきたい。また、外国人労働者も増えており、外国人も住民として捉える社会になっており、外国人も自然と受け入れられるような施設になって欲しい。誰の孫かということではなく、高齢者と子どもが一緒に利用しやすい場所になったらよいと思う。そのような場所で、どういった活動がしたいか、考えてみた。もし、国際交流ラウンジが図書館と同じフロアにあれば、外国人が、子どもなど図書館利用者に本の読み聞かせ会などができると良いと思う。また、高齢者が公園を訪れる機会を作ることができれば、その続きで、施設に来て外国人とお茶をする機会が生まれるのではないか。外国人、高齢者、子どもなど多様な人々が、一緒に共生できるような場所になったら良いと思う。淵野辺には、「ふちのべ大学」という考え方があり、青山学院大学、桜美林大学、麻布大学のサークル活動を新しい施設の中で展開し、一般市民も参加して一緒に活動ができたなら良いと思う。そのような場所となることを目指して、具体的な検討をしていきたいと考えている。

●：ありがとうございます。追加で「次期市民検討会委員へ伝えたいこと」に書きたいことがある方は、12月14日までに提出をお願いしたい。

◎：今回の成果としては、次期市民検討会へ引き継ぐパターンを決めたことだけが成果なのか。今の発表にあったような「将来こんな活動がしたい」というようなことを、もっと話し合えると良かったと思う。

○：我々の生活がどのように営まれていて、どのように支援してもらえるのかということまで含めた話があっても良かったのかと思う。それはまた別の機会にしたいと思う。

#### 【有識者協議会委員による講評】

##### ・押田委員

委員の皆さんの想いを聴くことができた。公園の視点では、鹿沼公園は「地区公園」という位置づけであり、徒歩圏内の方が使うことを想定して約50年前に作られている。今のまちの形は、50年前のものである。公園はだいたい50年スパンで考えている。施設を建てる時と明らかに異なるのは、公園の中には、水、植物といった生命を宿さなければならないという点である。植えてしまった命だからこそ、責任を取らなければならない。それをみんなで育んでいくということが、求められる。明治神宮の森は、100年後を考えて作ら

れている。公園を作るときに、一般的には「10年後」というのは近すぎる。鹿沼公園は、ちょうど50年が経って、公園のリニューアルや残し方を考える時期に来ている。この先の次世代を考える際には、50年後にどう残っているのか、どうリニューアルするのかを考える必要がある。前回、式年遷宮のような話も出ていたが、50年後にどう思われている施設をつくるのか、よく考えてみてはどうか。50年前の世の中を考えてみると、自動車の交通量は今ほど多くはなく、高度経済成長期の最後の方で、これからどんどん人口が増えていくという世の中であったことから、今でも無料の駐車場が残っている状態である。市民検討会について、大きな反省点があるとすれば、ネガティブなところから議論が始まってしまったという点である。人口が減少する、高齢化が進む、財政が厳しいと言われると、圧迫感にさいなまれ、明るく楽しい空間を考えることができなくなってしまう。一方で、淵野辺には良いところもたくさんある。最初のころの市民検討会でも話題になっていたが、淵野辺は交流人口が多い地域である。学生や外国人が多く、まちの顔となる公園、図書館といった人を集めることができる公共施設があり、それらを中心としたまちづくりをすることができる。ぜひ、次期市民検討会に引き継ぐ際には、明るい要素も踏まえながら検討を進めて欲しい。そうすると、誰のためかということに関しても、50年前は子どものことだけだったと思うが、今は高齢者も外国人も、今まであったバリアが取れかけている。50年後には、もっとバリアが取れると思う。国籍なども含めて、色々なものがバリアフリーとなる。そういったことを見据えていただけるとありがたい。駐車場の話はこれまで公園WGでも出ていた。収益に繋げるとか、周辺の道路についても、公園の道路にするなど、色々使い方はある。そのような細かい議論が次期市民検討会でできると良いと思う。皆さん、お疲れ様でした。

#### ・小山委員

こうやって皆さんが話し合ってきたことは、会議録の中に残っており、皆さんの記したものは、資料の中に残っている。それらはきちんと次期市民検討会に引き継ぐこととしたい。公民館の敷地の使い方をどうするのか、最近「コモンズ」という言葉が良く使われるようになった。日本でも「コモンズ」の考え方は昔からあり、「おじいさんは、山へ芝刈りに」と言うときの芝刈りの場所は、おじいさんの土地だったのかというと、そこはみんなの場所、共有地であって、だからこそ、その場所をどうしようかと考える。里山の話も同様であり、どうやってそこを使っていこうか、どんな生活をその場所を使って営んでいくのかについて、みんなで共有する場があった。そういうものが、例えば、公民館で担うことになるのかも知れないし、淵野辺の地区そのものが「コモンズ」にな

ると考えると、先ほど話が出ていたように、そこにどんな人たちがいるのかということとはとても良い視点だと思う。誰がその場所を使うのか、誰がそこで活動をしているのかというように、いつも主語を考えるようにしている。そこに人がいるということが、今後皆さんにとっても中心的な話題になると思われる。そのような考え方が、今後引き継がれていくとよいのではないかと。皆さんお疲れ様でした。

・鈴木委員

これまでの間を振り返ると、長かった。新型コロナウイルス感染症の影響で市民検討会を開催できない時期もあったが、やっとここまで来た。今日のまとめの内容は、スタートラインである。ここまで合意形成するのに、これぐらいの期間を要するのだということである。これからは、中身をどうしていくのか。今度は制約になるが、この中で各施設をより活性化するには、どうしたらよいのか、各施設はこの中で、どういう意味を持ち続けることができ、どんな新しい意味が付与されるのか。そのようなことを、次期市民検討会委員には考えて欲しい。そのようなことを考えてもらうために必要なのは、現市民検討会委員が、長い間検討してきた成果としての本日のまとめである。成果はすぐに出るものばかりではなく、後になって出てくるものもある。長い間、お疲れ様でした。

3 その他

事務局より、市民検討会振り返りアンケートや次期市民検討会委員の公募について、説明した。

以上

出 欠 席 名 簿

まちづくりワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯田 秀雄	出席
植田 憲司	欠席
茅 弘秋	出席
今 美和子	出席
佐野 玲希	欠席
白石 一郎	出席
畑 耕一	出席
松下 和則	欠席
山林 亮太	欠席
渡辺 章	欠席

公共施設ワーキンググループ

氏 名	出欠席
太田 裕	出席
小方 明	出席
小野澤 行雄	出席
上遠野 イク子	出席
金 愛蓮	出席
佐伯 明美	出席
高柳 眞木子	出席
平本 峻	欠席
靱井 結希	欠席
矢部 裕子	出席

公園ワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯沼 容子	欠席
荻野 弓希子	出席
荻原 ますみ	出席
城田 大介	出席
狭間 宏明	欠席
北條 幸治	欠席
島津 陽子	出席
山口 清孝	出席

有識者協議会委員

氏 名	出欠席
押田 佳子	出席
小島 仁志	欠席
小山 憲司	出席
杉崎 和久	欠席
鈴木 眞理	出席
野口 直人	欠席
山口 直也	欠席